

産婦人科この1年

産婦人科医長 川村 光弘

人事移動

安達かおり 2001.03.31退職 慶愛病院へ
野澤 明美 2001.04.01赴任 国立札幌病院より

この1年の総括

1) 周産期関連

全国的に分娩数が減少傾向を示す中で、当院の取り扱い分娩数は一貫して増加傾向を示している。分娩総数は495件と前年より25件、5.2%増加している。隣接する他施設の医長の交代などのため、当院に分娩が集中する傾向があったことも事実だが、多産婦の比率も高く、出生、育児への意欲がこの地域において維持されていることが注目される。地域別の分類は表1に示すとおりであり、ほぼ例年通り名寄市居住者が全体の50%前後、その他の上川管内居住者が25%前後、南宗谷4町村居住者が20%前後を占めた。

2) 婦人科関連

本年も卵巣癌、子宮体癌など悪性腫瘍症例が昨

年に引き続き多かった。治療内容も昨年に引き続き手術の他、多剤併用化学療法を行った症例が多かった。手術件数は昨年より一気に増加し278件となった。術式としては早産予防のための子宮頸管縫縮術が前年の3倍に増え、腹式の子宮全摘術も準広汎、単摘を含め増加した。内容は表2に示す。

3) 地域医療関連

本年も昨年同様に性教育関連の講演を、川村、日高が数カ所の高校や、上川教育局、教員研修の場で行った。10台の青少年における性感染症の蔓延は当地域においても深刻さを増しており、若年者の妊娠中絶も増加傾向にあり、個々数年行ってきた集団指導の手法では限界があることが明らかとなってきた。今後自治体や教育機関、PTAなどと連携し、より実効性の高い対策を講じて行かねばならないと考え、平成15年度の目標と考えている。

4) 医療事故について

産婦人科の手術に関連した医療事故を発生させてしまったことを深く反省し、原因の解明と再発防止に勤めたいと考えている。

表1 分娩数の年次別、地域別推移

	1999年	2000年	2001年	2002年
名寄市	215	256	260	249
下川町	21	28	34	22
風連町	31	32	23	29
美深町	35	40	33	46
音威子府村	6	7	3	7
中川町	15	7	11	11
士別市	6	9	6	6
枝幸町	30	41	43	52
浜頓別町	34	20	21	33
歌登町	15	11	13	9
中頓別町	8	13	12	10
西興部村	3	4	5	3
その他	29	14	8	20

表2 2002年産婦人科手術内容

子宮全摘術	50件	帝王切開術	56件
腹式子宮全摘術	28件	子宮外妊娠手術	1件
腔式子宮全摘術	22件	流産手術	87件
子宮付属器手術	29件	頸管縫縮術	30件
筋腫核出術	3件	その他	27件
膣形成術のみ	2件		

